

【埼玉県立児玉白楊高校の「新たな教育モデル」への挑戦】

生徒のアクションに社会がリアクションする。「アクションリアクション」が広げる新たな教育(エデュケーション)の可能性。県立児玉白楊高校は、1つの通年カリキュラムを通し、実践的で、能動的で、機能的で価値のある教育モデルの実現に挑んでいます。

POINT 1) 同校でしか実現しえない「独自の学習モデル」を構築

a) 学校の独自性が活きる学習

- ・ 農業科・工業科の併設校という独自性を活かし、2科の相乗効果を生み出すコラボレーション学習を実現。
- ・ 同校からの進学や就職先を見据えた、将来に活きる実践的学習を実現。
- ・ 社会との接点を生む、就職先を拓く、卒業生が教える、地域(未来)を皆で考える等、ポジティブな同校のサイクルを実現。

b) 地域性や関係性が活きる学習

- ・ 地域の企業、関係者のネットワーク等を活かした、企業・組織参加型(産学官連携)の実践的学習を実現。
- ・ 同校の土地や環境、風土や歴史を課題対象にし、地域に活きる、地域に根ざしたオリジナルの学習を実現。

c) 主体性が活きる学習(能動的学習)

- ・ 生徒のみならず協力する企業組織が同じ視線で挑める学習課題を設定し、産学官が主体性をもって刺激し合いながら能動的に学習できる環境を実現。その中で、生徒が主体的に問題を発見し、解を見出す能動的学習(アクティブ・ラーニング)を実現。
- ・ 学外コンペへの参加、SNS等を利用した情報発信等、学校の枠組みを超えた要素を学習に取り入れ、生徒のやりがいや主体性を促進。

POINT 2) 未来志向の「実践課題」を導出

課題：未来の「環境」と「システム・エンジニアリング」の在り方・関係性を考える

農業科・工業科の2科間をつなぐ課題、かつ今の時代が抱える大きな問いを課題に設定。協力企業や研究機関等もシェアできる未来思考の課題に、先入観や既成概念のない生徒が中心となって挑む。年度ごとに制作課題を設けて、具体的に実践する。

2015年 制作課題)

〈農業分野でのICT(情報・通信技術)活用を目指した半自動灌水システムの開発とデモ制作〉

- ・ 地域の産業(農業)や生活を意識した、未来志向の灌水システムとコンセプトを導出(半自動システム)
- ・ スマートフォンやモバイル、PCと連動した監視制御システムを企画し、チームで開発する
- ・ システムのインターフェイスやデモ設置用の坪庭をデザインし、関係性を学び、プレゼンテーションを行う

※すべてのプロセスにおいて、各フェーズで各専門企業や組織と協同。

2016年 制作課題)

〈灌漑システムの屋外設置と環境デザイン： 未来志向の造園プロジェクト〉

- ・ 同校の一角を対象とし、歴史風土に根ざした環境(庭の)デザインコンセプトの導出
- ・ 環境デザインと、それを支える先端システム・エンジニアリングの関係性を定義
- ・ 灌漑システム(センサー等を含む)や環境(庭)を自由な発想でデザインし、施工までのすべてのプロセスを経験
- ・ 学外コンペへの参加や SNS・ウェブ等を利用した情報発信など対外的コミュニケーションの実践域を拡張

※すべてのプロセスにおいて、各フェーズで各専門企業や組織と協同。

POINT 3) 理想の教育モデルを実現させるための体制づくり

民間の「クリエイティブ・ディレクター」を招き、教育の現場(担当教諭)とのコラボレーションで既成概念にとらわれることのない同校の理想的「教育モデル」の導出に努める。また、各専門家、企業、研究機関、産学官連携組織などと連携し、同校の教育モデルの充実に努めている。

ACTION Re-ACTION EDUCATION

TEAM :

埼玉県立児玉白楊高等学校

事務局： 公益財団法人 本庄早稲田国際リサーチパーク

クリエイティブ・ディレクション： 株式会社モストデザイン

監修： 浦野義頼 早稲田大学名誉教授

システムサポート： 株式会社グローバルソフトウェア

システムサポート： 株式会社アイエスイーエム

造園設計サポート： 株式会社丸浜設計舎

設備施工サポート： 株式会社児玉設備工業 その他

プロジェクト公式サイト： <http://action-re-action.com>

児玉白楊高校プロジェクトインスタグラム： https://www.instagram.com/kodamahakuyo_log/